

- ▼競技趣旨** リレーマラソン in 長居は、さまざまな多様性をもった選手が協力しあって所定の距離を走ることで、参加者全体で協力し合って走るランニングの楽しさを共有することを第1の目的とします。
開催趣旨を各選手が理解し、事故のないようお互いに配慮してランニングを楽しむことを優先します。

▼競技規定

1.コース・種目

ヤンマースタジアム長居を起点とし、長居公園内の1周約1.9kmの特設コースを周回する。
[フルリレーマラソン(以下フル) 42.195km] 全22周と第1走者のみスタート直後に陸上競技場での余分を走る。
[ファミリー10kmリレーマラソン(以下ファミリー) 10km] 全5周と第1走者のみスタート直後に陸上競技場での余分を走る。

2.選手・走者

あらかじめ申込みでエントリーした者を選手とする。当日の選手変更、追加は認めない。事前エントリーの選手が参加できない場合は、当該選手欠員のまま参加を認めるが、欠員選手分の参加費の返還は行わない。
※[ファミリー]は、欠員選手が出るとチーム要件を満たさない場合が生じるが、この場合は協議を経て競技委員長が対応を決定する。
タスキを装着してコースを走行する者を走者とする。競技中各チームコース上には走者1名のみ走行できる。ただしリレーゾーンは次の周回をする選手(次走者)が待機しタスキを受け取ることができる。

3.チーム

[フル] 中学生以上で自力で1周以上を走ることのできる3名～10名の選手で構成されるチーム。性別は特定しない。
[ファミリー] 小学生を1名以上含む自力で走ることのできる5選手までのチーム。ただし小学生は1周のみ走ることができる。小学生も第1走者を務めることができる。小学生5選手だけで構成されるチームも認める。

4.ゼッケン

各チームにはエントリー選手人数分のゼッケンが発行される。選手は胴体前面に第3者から確実に見えるように競技終了時まで取り付ける。ゼッケンの改造・書き込みは認めない。

5.タスキ

各チームにICチップ内蔵タスキ(以下タスキ) 1本が支給される。タスキは必ず走者が装着して走る。競技終了後、最終走者は速やかに係員にタスキを返却する。返却の確認が取れない場合は、チームに実費請求を行うことがある。

6.トラック/フィールド

陸上競技場トラックへは走者と次走者のみ侵入ができる。走者以外の選手がやむなくトラックを横断する際は、走者を妨害することなく速やかに横断する。フィールド(ピッチ)への侵入は、開会式・表彰式開催時、次走者として待機する際、いずれも選手のみを認める。

7.リレー

陸上競技場メインストレッチ部分にリレーゾーンを設ける。各チームの走者交代はこのリレーゾーン内のみで、タスキを次走者に受け渡すことで認められる。各選手の周回数は事前に届け出る必要はない。また一度走行して退いた選手も再び走者として走行できる。

8.記録測定

スタジアム走路内に時間測定ポイントを設ける。タスキに内蔵されたICチップが通過することで周回数、経過時間を測定する。

9.スタート

種目ごとに定めたスタート地点から一齐にスタートする。スタート地点には第1走者のみ侵入可能とする。[フル]→[ファミリー]の順でスタートを行う。スタート地点での整列順は指定しないが、危険防止のため目標タイム上位者を前にするように運用する。

10.周回数

周回数は原則各チームにてカウントし、最終周回においては走者は自主的にフィニッシュレーンに侵入してフィニッシュする。周回数は、計測テントに掲示する途中記録でも確認することができる。

11.フィニッシュ

スタジアム走路内に設ける。この地点を所定の周回を終えたタスキが通過した時点が各チームのフィニッシュタイムとなる。フィニッシュ直前50mのフィニッシュレーンは同チーム選手も走者と並走しフィニッシュすることができる。

12.時間制限

スタートから5時間を競技終了時間とし計測を終了する。時間内でフィニッシュできないチームは記録なしとする。

13.給水

フィニッシュライン付近に給水所を設置し主催者が飲料水を提供する。次走者にリレーを終えた希望選手が飲料水を摂る。この他のコース上での給水・飲食は認めない。

14.リタイア

完走前に競技を中止する場合は、走者が近くの走路員にその旨を申し出る。リタイアしたチームは速やかにタスキ、ゼッケンを本部に返却する。

15.ペナルティ

コースを外れる、意図的に走路を妨害する、選手登録していない者が走行するなど不正が認められた場合、大会役員は当該走者に走行停止をさせ同チームを失格とする。

16.表彰

各種目上位3チームを表彰する。種目ごとに当該チームが決定次第速やかに本部付近にて表彰式を行う。当該チームは全選手表彰式に参加する。

17.その他

事故などで競技の継続が困難な事象が生じた場合は、全チームの走行を中断し、しかるべし措置の後復旧の確認ができた時点で競技を再開する。その他競技規定に定めない事項で重大な変更を余儀なくされる場合は、大会事務局の協議を経て実行委員会会長が対応を決定する。